



①メタバース（三次元仮想空間）の山古志村。昨年10月23日には中越大震災追悼式典の中継も行われました
②1月にお試し移住に参加した細田さん家族。闘牛の面づくりに体験や地域住民との交流で、デジタルでは味わうことのできない山古志の暮らしを満喫しました



山古志のリアル×デジタル 新たな地域づくりを後押し

閩地域振興戦略部 ☎39・2515

市は、人口減少が進む中でも持続的な地域づくりを担う団体の活動を支援しています。その一つである山古志地域の住民団体による挑戦が、国内から注目を集めています。名産の錦鯉がモチーフのデジタルアートを販売し、購入者を「デジタル村民」に認定。1千人以上がインターネット上の「仮想山古志」で交流し、

地域課題の解決のために意見交換を行います。今冬は、デジタル村民が市のお試し移住制度を利用して現地を訪れるなど、地域との直接的な関わりも生まれています。市は今後も住民団体などと協力し、関係人口の増加や移住定住の促進、地域の魅力向上に取り組んでいきます。

仲間とつくり上げる これからの山古志

山古志住民会議 代表
竹内 春華 さん

震災以降多くの人に支えられ、さまざまな挑戦を続けた山古志。それでも人口減少が避けられない中、住民の数にとられない地域づくりとして、国と市の補助金を活用した「仮想山古志プロジェクト」が始まりました。

昨年2月にはデジタル総選挙で地域を盛り上げるプランを選定。作品の売り上げを予算として充て、企画を進めています。また、実際に現地を訪れてイベント運営や除雪を手伝うデジタル村民も。熱意を持ち、それぞれの形で地域の力になってくれています。今後も世界中に仲間を増やしながら、みんなで支え合う山古志をつくっていきたくです。

「たくさん友達を作りたい！」 上塩小が 栃尾東小と統合へ

閩学務課 ☎39・2239



レクリエーションで交流を深める児童（昨年11月21日）

上塩小5年・藤田 咲聖さん
クラブや委員会の種類が多くて楽しめず。大勢で鬼ごっこをして遊びたいです！

子どもたちの声

栃尾東小5年・五十嵐 希愛さん
上塩小のみんなが早くなじめるように、私たちが積極的に声を掛けて仲良くなりたくです！



今年4月、栃尾地域の上塩小学校は栃尾東小学校と統合します。上塩小の児童は現在22人です。児童数の減少に伴い、市では令和2年度から、子どもたちの充実した学校生活に必要な教育環境などを保護者と議論。より多くの友達と人間関係を築き、多様な経験をしてほしいなどの理由で、統合を希望する声が多く挙がり、地域も合意しました。統合に向け、昨年秋頃から校外学習や児童会祭りの準備などで交流してきた子どもたち。春から新たな学校生活がスタートします。

若者視点で再発見！ 地域の魅力、さらに引き出す

閩地域振興戦略部 ☎39・2515

市は、支所地域にある美しい景観や文化などを「地域の宝」に選定し、これを守り育てる市民活動を支援しています。

今年度、若い世代にも地域の魅力を知ってもらい、気軽に楽しんでもらうきっかけをつくらうと、長岡工業高等専門学校・長岡造形大学と連携。学生が現地を訪れ、地域資源の新たな活用方法を検討しました。今後の市の取り組みに学生たちのアイデアを反映し、地域が誇る歴史・文化や観光資源のさらなる活用を進めます。

長岡高専生の視点

海のイメージが強い寺泊だけど、お寺や曲物などレトロなものがいっぱいSNS映えしそう。「寺泊のトレンド」として雑誌みたいで紹介したい！



与板・楽山苑にある「六方組み石垣」に注目。昔からあるものなのに、中越地震でも崩れなかった耐久性を持っているなんてすごい！

思わず出掛けたくなる！ 地域の魅力を集めたポスターが勢ぞろい

長岡高専の近くにある長岡市郷土史料館は、旧長岡地域の歴史・文化を紹介しています。訪れた人が支所地域へ出掛けるきっかけをつくらうと、私たちが感じた支所10地域の魅力をポスターにまとめました。3月15日(水)から展示がスタートします。



五十嵐 崇史さん

専攻科1年
坂田 北登さん

藤田 祐樹さん

長岡造形大生の視点

小国和紙アートでギネスに挑戦したい！

市内の小学生に小国和紙の短冊を作ってもらい、それを1カ所に集めて巨大な天の川アートでギネス記録に挑戦。世界一になった記憶と作品づくりで、子どもたちの心に残る一生の思い出をつくりたい！



良寛さんをVTuberに

実はお酒好きで、人間味あふれる良寛さん。彼の人生を追ったら面白いのではと思い、史上初!?の成長型VTuber*を企画。74年の生涯を74日分の配信で表現します。若者の認知度アップにつながるはず！

*VTuber…バーチャルユーチューバーの略称。YouTubeなどの動画配信サイトで架空のキャラクターの姿で活動する投稿者

若い世代に“刺さる”企画を考案

デザインを専門に学ぶ長岡造形大は、私たちも含め、学生の約8割が県外出身です。そのため、今まで良寛さんや小国和紙などの長岡に昔からある地域の魅力を知りませんでした。そんな私たちだからできる、若い世代やこれまで興味なかった人への新しい魅力の伝え方を考えました。



建築・環境デザイン学科
2年 雨宮 奏希さん

視覚デザイン学科
3年 遠藤 愛菜さん